# 何より「人」が財産
# 「おやじ力（りょく）」が地域を明るく照らす
# こんばんわ会

会長：森照信（てるのぶ）

会員：森下初（千頭）、中村秀雄（徳山）、森道徳（千頭）、神田優一（千頭）、杉山寿一（平栗）、三浦秀司（家山）、神谷功（千頭）、風間広康（沢間）、梶山雅史（千頭）、榎田浩二（千頭）、井口晶彦（小長井）
事務局：井口晶彦 ☎（59）3776

## 発端は飲み仲間の集まり

「もともと、飲み友達の集まりだったんだよ」。森照信会長が楽しげに話し始める。

地域の奉仕作業や年末のイベントを開催する「こんばんわ会」は、会員12人、千頭、小長井、徳山などの人で組織するまちづくり有志の会だ。

飲み仲間だから、集まるのは当然夜。行きつけの店に、「こんばんは～」と言いながら入ってくることから、会の名前が付いたという。

「あるとき会員が、ただ飲むだけじゃ面白くないから、何か始めようって言ったんです。それが18年前。会として具体的に動き出したのは、それからですね」。

最初の活動は、千頭―寸又峡間の道路のカーブミラー磨きやゴミ拾い。かなり距離があるが、丸1日かけて実施した。「終わったあとに飲む1杯がまた最高でね。みんな、充実感を味わったんですよ」。

それから今年まで、年1回の遊歩道整備や年数回に分けての奉仕作業などを実施してきた。

「みんなね、いろいろ考えているんですよ。会員たちはそれぞれ、集まる前にあちこち下見してくるんです。あそこの歩道が古くなっているとか、雑草を払いたいとかね。で、集まった席で『あれやろう、これやろう』って。意見やアイデアがぽんぽん出てくる。こっちがまとめるのが大変なんだから」と、照信さんが笑いながらこぼした。

## 灯りで地域を照らす

そんな会員の意見から始まったのが「道しるべ灯（あかり）」。千頭豊川稲荷別院の参道を中心に、和紙で作った灯り作品を10ｍ間隔、距離500ｍに渡って展示。暗い夜道をほのかに照らし、道行く人の心を温めた。

灯りの展示は昨年末が2回目。徐々に地域に定着しつつあるという。

「灯りのことを誰かに聞いて来てくれる人が増えました。また、『わたしたちも作品を飾りたい』と申し出てくれる人もいて、直前になって10基追加して展示したんです。中電さんも協力してくれて、今回は100基ほど並べることができました。地域の皆さんの評判も良く、『やってくれてうれしいっけよ』って言ってもらえたんですよ。そういう声を聞くと、こっちもうれしくなる。またやろうって元気がわくんです」。

今年はホタルの時期にも灯り展示を実施したいと、目下検討中だそう。神田優一さんは「豊川稲荷の別院は全国に6カ所しかありません。言ってみれば地域の宝。大切にしていきたいですね」と話していた。

智者の丘へと続く遊歩道を整備し直したのもこんばんわ会だ。木製の階段が老朽化し、ところどころ土がえぐれて危なかった。それを見た会員が提案したという。作業は大変だったが、終わったあとの一杯がたまらないと、みんなで笑い合った。

## 何より人が財産

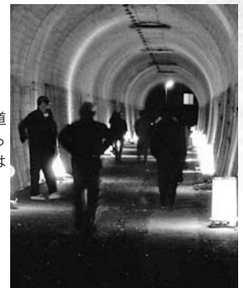
照信さんは言う。「こんばんわ会の財産は、何より『人』。土建屋もいればガス屋もいる。木の伐採のプロもいる。そんな人たちのやる気と行動力に支えられているんです。道しるべ灯りのときも、『テントが足りない』っていったら、どっかから木を持ってきて、あっという間に仮設テントをこさえちゃう。これってすごいことですよ。しかも楽しみながらですからね。毎回、全員が参加できるわけではないけれど、来れる人でやる、次は俺も出るよ、みたいにね。そんな感じで、これからも楽しみながらやっていきたいですね」。

こんばんわ会の活動を知ってもらい、ほかの地区でも何かやってみようと思う人が増えたらうれしいと、会員たちは口を揃える。

「高齢化とか過疎化とか何かと暗い話題ばかりのご時世だけど、こんなときだからこそ、自分たちで何かやらなきゃ。盛り上げていかなきゃね。高郷で夏祭りをやる人たちも同じ気持ちだと思う。いずれ町のあちこちで、そんな風に盛り上がっていけば、そしてみんなでつながっていけば、『元気な町』を実現できるんじゃないかな」。

会のみんなは、でかいことばかり言うと、事務局の井口さんが笑いながら言う。「でも、実際やれちゃうんだから、すごい。みんなのパワーにいつも感心させられるんですよ」。

こんばんわ会では、新たな遊歩道整備も企画中。さらに元気だ。参道を照らす灯りのように、まちを明るく照らし続ける。



今回（昨年末から今年の年始）の道しるべ灯は、昨年以上の人出があったと会員たちは話していた。写真は千頭隧道で撮影